

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 70 号

2017 (平成29) 年1月21日 (土)

おう こん りつ おし 黄金律の教え

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

あけましておめでとうございます。

新しい年がスタートしました。「寺子屋・こども論語塾」も7年目を迎えます。心新たに孔子の教えを学び伝えていく覚悟です。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

先日、ある保育園へ論語の素読指導に伺った折、最後に「園児の皆さん、先生に何か質問ありませんか」と問うと、ほぼ全員下を向いてしまいました。それまでの経験から多くの園児が「はい、はい」と手をあげてくれるものとばかり思っていたので当が外れてしまいました。

たまりかねたのでしょう。若い先生から「先生、子供達のためになる論語ってありますか」との質問が出ました。「ためになる?・・・」私は一瞬、動揺を隠せませんでした。落ち着きを取り戻し、「そうですね。論語の中に『己の欲せざる所、人に施すこと勿れ』という章句がありますが、この言葉は園児達にとってためになると思います。」と答えました。すると、一番前に座っていた女の子が、「先生!私知ってる。イジメはだめなんだよね。」と言ったのです。私はビックリ仰天。「そうですね。自分がしてほしくないことは、決して人にもしないということですよ。ですから、あなたが今言った通りイジメをしてはいけません。」と、その女の子の勇気ある発言に皆で拍手を送りました。

さて、冒頭の黄金律とは宗教の中で最も基本となる教えのことを言いますが、その一つに次のような言葉があります。

「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにしてあげなさい。」博愛の心を説いたイエス・キリストの言葉です。また、慈悲の心を説いた釈迦は、「他人の幸せを、自ら望んで探し求めなさい。」と述べています。そして、仁の心を説いた孔子は先にもふれた「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。」と述べているのです。表現こそ違え、内容に大きな違いはありません。

何と素晴らしい言葉であり教えなのでしょう。「イジメはだめなんだよね」と言ったあの園児は、家庭で毎日母親と論語の素読をしているそうです。孔子の言葉をイジメにたとえて子供に話した母親も立派ですが、それを覚えていて発言してくれた園児の感性豊かな心の優しさに胸打たれます。

新年を迎えるにあたって、人としての生き方を論じた黄金律の教えを今一度心に刻み、人の心の痛みがわかる人間になるよう努力してほしいと願ってやみません。

＝ちよつといい話＝

塾生の街道 夢(千歳市立高台小学校6年)さんが、剣道の全道大会個人戦で見事第3位に入賞したそうです。また、夢さんは石狩管内のスポーツ少年剣道大会に出場した際、トイレのスリッパが乱雑になっていたので一足ずつきちんと整頓している様子が大会関係者の目に留まり、閉会式の折、話題にされたとのこと。まさに、仁の心を持って実践したことが評価されたわけです。夢さんに拍手です。